

釧路市立博物館所蔵の商業関係資料

－ 伊藤家資料 －

戸 田 恭 司*

Notes on the collection concerning commerce in Kushiro City Museum

- trade books of Itoh's family -

Kyoji TODA*

1. はじめに

釧路市立博物館では、平成10年10月末から約1ヶ月にわたり、企画展「釧路の商家」を2階特別展示室で開催した。ここでは、ほぼ一世紀にわたって開業されている善伊藤商店に関する資料約130点を展示したが、当館においてこのようにまとまった形で商業に関する展示を行うのは初めての試みであった。

同商店からは、2代・30年あまりにわたって現在までに商業・生活に関するおよそ一千点にのぼる資料の寄贈を受けている。当館所蔵の商業関係資料は数量的にも限られていることもあり、特に貴重な資料と言える。このうち、商いに関する帳簿について、その概要を本稿で紹介するものである。

2. 伊藤家と善伊藤商店

善伊藤商店は、現在釧路市の中心街で果物を扱う商店を経営している。同店の変遷及び伊藤家について、2代金次郎及び3代敬之輔氏からの聞き取り調査の結果を中心に、以下のようにまとめた。

伊藤商店初代の弥三郎の父弥助は、現在の岩手県宮古市の出身である。明治2（1869）年の箱館戦争の際には市中を逃げまわったという話が伝えられているところから、この頃には函館に在住していたと思われる。北海道に渡った一番の理由は、一旗揚げようというところにあったようだ。弥助は恵比須町（現末広町）で「鈴（ほしやまや）」という屋号を掲げて衣料を扱う商売を始めた。当初は商品を背負って市中をまわりながら商いをしたという。また、当時函館に在住していたT.W.ブラキスト

ンとも交流があったと伝えられている。

弥助の三男として函館で生まれた弥三郎は、標茶に明治30（1897）年頃移住し、雑貨を扱う商店を開業した。しかし、その頃標茶はアトサヌプリでの硫黄採掘が終了したこともあり、発展にややかげりが見えてきていて、彼は将来の発展を見込んで釧路へ移住した。当初、現在の北大通5丁目3番地（中山茶紙店）に米雑穀を扱う善伊藤商店を開業した。しかし、西日が当たる店舗は米に影響があるとのことで、明治34（1901）年11月に向かい側の北大通5丁目5番地（当時は西幣舞11番地）の現在地に移転した。ちなみに、屋号の善（まるぜん）は「善心を持って行う者は必ず栄える」ところからつけられたという。

当時の釧路は、幣舞橋の架設（明治33年）・鉄道の開通（釧路～白糠間、明治34年）というできごとが続き、産業の進展と相まって以後、まちなみが広がっていった時期に当たる。伊藤商店が開業した地は、新興地としてまちなみがつくられ始めた地域であり、やがて昭和戦前期には市内の中心街に成長を遂げて現在に至っている。

2代金次郎は弥三郎の末弟で、函館に生まれ、地元の商店で奉公した後、明治39（1906）年兄を頼って釧路へ移住した。兄夫婦に子供がなかったため養子となり、後を継いで商店を経営した。また、明治末期に現白糠町庶路に500町歩の牧場を開設し、戦後の農地改革時まで主に軍馬の育成を行っていた。大正2（1913）年の年末に286戸が焼失する火災に巻き込まれて店舗を焼失、翌年木造2階建てとして新築している。

3代となる敬之輔氏は、昭和13（1938）年金次郎夫妻の養子に迎えられて釧路に移住。太平洋戦争後の昭和23



写真1 標茶時代の弥三郎（後列右から2人目）



写真2 標茶時代の伊藤商店

* 釧路市立博物館（Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido 085-0822）

(1948)年に店の経営を譲られたのを機会に、統制が解除された果物を扱う店へと転換した。昭和45(1970)年、現在の鉄筋造6階建てビルを建築、住居・店舗があるほか画廊を開設し、美術品展示の場を提供している。現在、敬之輔氏は会長となって第一線を退き、4代目の忠雄氏が伊藤商店の経営を行っている。

3. 資料について

(1) 概要

資料はあわせて183点に及んでいる。保存状況については表紙が破損しているものも見られるが、おおむね良好である。逆に、良好なものだけを保存していたとも言える。記載されている時期は古いものでは明治37年、新しいものでは昭和18年となっている。帳簿の種類によっては多少時期にずれが見られるが、大正期から昭和初期が中心となっている。数人の手によって記載されているが、ほとんどが金次郎の手による。一部、鉛筆書きやペン書きが見られるが、毛筆書きが主であり、金次郎は達筆かつ速筆であったという。また、帳簿によっては欄外にも細かなメモ書きがされており、人柄を表していると言える。

資料の内訳は表1であるが、便宜上資料名については統一するようにつとめた。内容は商いに関するものと、伊藤家の生活に関わるものに分けられる。前者については、荷受け関係の船荷證写、売買関係の元帳・当座帳・大福帳・現金帳・金銭判取帳・惣帳・白米出入帳・官塩受払簿・煙草買受帳、商品の受け取り及び発送に關係する貨物判取帳・貨物配達書受領證控帳・鉄道直扱貨物発送覚・新釧路送状がある。後者については、家計に関する座右出納簿・金銭出納帳・荷受帳・支払帳・御通(通帳)となっている。

(2) 伊藤家の商いと暮らし

伊藤家資料の特色は、釧路の商業の実際にふれることができることと同時に、大正期から昭和初期の釧路という時代についてもふれることができるところにある。資料から、伊藤家の商いと暮らしについてふれてみたい。

まず商いについてであるが、当時の商習慣として現金売りのほか、貸し売りもかなり見られる。帳簿間で、貸

し売りと現金売りの記載時期が共通なのは約8ヶ月間と、両者を合わせた一日の取引については限られた期間しかわからない。しかし、貸し売り(一部を除く)については大正6年から同15年及び昭和9年から同16年まで、また現金売りについては大正6年から昭和12年まで、数年を除く20年間にわたって記載されており、扱っていた商品や当時の価格、顧客について知ることができる。商品としては、米・麦類・豆類・味噌・調味料・酒・麺類のほか、石油なども売買されている。顧客を見ると、一般客が大半を占めてはいるが、商店の立地からか業者も多く見られる。貸し売りされた商品は、買い受け先で受け取りの証明と引き替えに渡されている。また、貸し売り分の金銭は各月末で締められ、同月末及び翌月に回収されることになっている。

商品は、船または鉄道によって集荷され、売買された後の一部は鉄道によって郊外へも発送されている。船は米・味噌・酒などの輸送に使われており、荷出し港として主に函館・青森・秋田・新潟などが見られる。一方、鉄道輸送の発送先は現在名で記すと、大楽毛・山花・桜田(ともに釧路市)、阿寒市街、庶路・白糠(ともに白糠町)など、現在では車を利用すれば30分から1時間程度で届く地域であり、これらが当時の商圈と言える。

伊藤家の暮らしについては日々の金銭出納に関わる帳簿があり、伊藤家がどの商店からどのような物品を購入しているか、また日常どのような支出があったのかなどについて知ることができる。日用品などの購入のほか、



写真4 元帳・金銭判取帳・当座帳



写真3 昭和40年代前半の伊藤商店



写真5 貨物判取帳・荷受帳・船荷證写

釧路市立博物館所蔵の商業関係資料

表1 資料一覧

番号	資料名	数量	計測値	年 代	摘 要
1	元帳	1	L 265 W190	大正6年	表紙なし 顧客一覧あり
2	元帳	1	L 265 W190	大正6年・大正7年	表紙なし
3	元帳	1	L 265 W190	大正8年	表紙なし 顧客一覧あり
4	元帳	1	L 276 W197	大正9年	表紙「臺帳」
5	元帳	1	L 268 W192	大正10年	表紙「臺帳」
6	元帳	1	L 273 W200	大正11年	表紙「臺帳」
7	元帳	1	L 273 W197	大正11年	表紙「臺帳」
8	元帳	1	L 271 W195	大正12年	表紙「臺帳」
9	元帳	1	L 272 W195	大正12年	表紙「臺帳」
10	元帳	1	L 268 W194	大正13年	表紙「臺帳」
11	元帳	1	L 267 W193	大正13年	表紙「臺帳」
12	元帳	1	L 268 W193	大正14年	
13	元帳	1	L 272 W196	大正15年	
14	元帳	1	L 272 W198	大正15年	裏表紙に通達文書（食塩販売価格）添付
15	元帳	1	L 277 W205	昭和9年	未使用
16	元帳	1	L 277 W210	昭和11年	表紙「臺帳」
17	元帳	1	L 275 W200	昭和12～16年	表紙「臺帳」 領収書綴添付
18	元帳	1	L 276 W205	昭和12年	表紙「臺帳」
19	元帳	1	L 278 W201	昭和13年	表紙「臺帳」
20	元帳	1	L 283 W215	昭和14年	
21	元帳	1	L 283 W218	昭和15～16年	
22	元帳	1	L 270 W186	昭和7年1月～昭和15年9月	表紙「昭和七年度ヨリ井出殿」 地代入金簿（昭和6年4月～16年12月） も含む
23	現金帳	1	L 205 W129	大正6年10月15日～大正7年8月9日	
24	現金帳	1	L 205 W163	大正8年6月10日～大正8年12月31日	
25	現金帳	1	L 207 W164	大正10年7月16日～大正11年6月14日	
26	現金帳	1	L 207 W166	大正11年6月15日～大正12年5月18日	
27	現金帳	1	L 208 W166	大正13年1月1日～大正13年9月30日	表紙に短歌記載
28	現金帳	1	L 209 W162	大正15年2月21日～昭和元年12月31日	表紙に「伊藤弥三郎商店」の印
29	現金帳	1	L 209 W162	昭和2年1月1日～昭和2年10月9日	
30	現金帳	1	L 204 W161	昭和2年10月10日～昭和3年4月11日	
31	現金帳	1	L 204 W158	昭和3年4月12日～昭和3年9月13日	表紙「現売」
32	現金帳	1	L 206 W160	昭和7年10月20日～昭和8年2月2日	表紙に紙片添付
33	現金帳	1	L 203 W157	昭和8年7月5日～昭和9年4月24日	
34	現金帳	1	L 206 W165	昭和9年4月25日～昭和9年10月23日	表紙「現金」
35	現金帳	1	L 208 W166	昭和9年10月24日～昭和10年4月22日	
36	現金帳	1	L 207 W162	昭和10年4月23日～昭和10年8月9日	
37	現金帳	1	L 207 W164	昭和10年8月10日～昭和10年11月27日	
38	現金帳	1	L 208 W164	昭和10年11月28日～昭和11年4月18日	
39	現金帳	1	L 207 W160	昭和11年4月19日～昭和11年8月17日	
40	現金帳	1	L 207 W164	昭和11年8月18日～昭和11年12月13日	
41	現金帳	1	L 203 W160	昭和11年12月14日～昭和12年5月2日	背表紙に破れ
42	現金帳	1	L 206 W169	昭和12年5月3日～昭和12年8月17日	表紙の記載期間と実際の記載が異なる 「掛帳」ともある
43	惣帳	1	L 188 W130	大正2年1月～大正5年2月	
44	惣帳	1	L 190 W132	大正5年3月～大正8年1月	
45	惣帳	1	L 190 W130	大正8年2月～大正10年12月	常設展示
46	惣帳	1	L 190 W132	大正12年7月～大正15年4月	
47	惣帳	1	L 190 W130	昭和8年3月～昭和10年1月	常設展示
48	惣帳	1	L 188 W132	昭和10年2月～昭和11年11月	
49	惣帳	1	L 190 W131	昭和11年12月～昭和13年11月	
50	惣帳	1	L 190 W132	昭和13年12月～昭和16年1月	
51	支払帳（一）	1	L 193 W135	大正8年11月～大正11年3月	
52	支払帳（二）	1	L 185 W130	大正11年3月～大正14年1月	
53	支払帳（三）	1	L 190 W130	大正14年2月～大正15年10月	
54	支払帳（四）	1	L 190 W130	大正15年11月～昭和2年12月	
55	支払帳（五）	1	L 188 W130	昭和3年1月～昭和3年10月	
56	支払帳	1	L 190 W132	昭和3年11月～昭和4年7月	
57	支払帳	1	L 236 W156	昭和7年6月～昭和10年3月	刻煙草受払（明治37年7～11月）含む
58	支払帳	1	L 235 W161	昭和10年4月～昭和10年12月	
59	支払帳	1	L 233 W160	昭和11年1月～13年9月	
60	大福当座帳	1	L 238 W162	大正元年12月29日～大正2年11月24日	No62へ続くと思われる

番号	資料名	数量	計測値	年 代	摘 要
61	大福帳	1	L235 W160	大正2年1月～大正2年12月	形式は元帳と同じ
62	大福帳	1	L240 W162	大正2年11月25日～大正3年9月9日	常設展示
63	大福帳	1	L236 W160	大正3年9月10日～大正4年6月22日	
64	大福帳	1	L239 W164	大正4年6月23日～大正5年5月3日	
65	大福帳	1	L232 W161	大正5年5月4日～大正5年12月19日	常設展示
66	大福帳	1	L236 W160	大正5年12月20日～大正7年8月9日	
67	当座帳	1	L236 W160	明治45年1月1日～大正元年9月21日	
68	当座帳	1	L238 W163	大正元年9月20日～大正元年12月28日	メモ（6月上棟式挙行）あり 常設展示
69	当座帳	1	L243 W164	大正2年9月22日～大正3年3月31日	
70	当座帳	1	L240 W165	大正3年4月1日～大正3年12月31日	
71	当座帳	1	L238 W163	大正4年1月1日～大正4年11月13日	常設展示
72	当座帳	1	L238 W163	大正4年11月14日～大正5年8月14日	
73	当座帳	1	L232 W161	大正5年8月15日～大正5年10月31日	
74	当座帳	1	L234 W160	大正5年11月1日～大正6年1月31日	表紙なし 16年2月13日～6月24日記載なし
75	当座帳	1	L236 W162	大正6年2月1日～大正6年10月15日	
76	当座帳	1	L236 W163	大正6年10月15日～大正7年6月30日	
77	当座帳	1	L235 W158	大正8年6月1日～大正9年4月9日	顧客一覧メモあり 新聞の一部（商店広告）添付 表紙「出入口記帳」 顧客一覧メモあり 表紙「奥控」 メモ（委任状の様式）あり
78	当座帳	1	L231 W160	昭和12年12月23日～昭和13年10月6日	
79	当座帳	1	L235 W165	昭和13年10月7日～昭和14年7月10日	
80	当座帳	1	L235 W161	昭和14年7月11日～昭和15年4月30日	新聞の一部（米価）添付 表紙「金銭出入帳」 表紙「金銭出入帳」
81	当座帳	1	L232 W163	昭和15年12月1日～昭和16年12月2日	
82	座右出納簿	1	L201 W130	大正8年4月25日～大正9年2月24日	
83	座右出納簿	1	L208 W125	大正9年2月25日～大正9年11月22日	表紙を紙で包装 表紙「金銭出納簿」
84	座右出納簿	1	L208 W132	大正9年11月23日～大正11年3月19日	
85	座右出納簿	1	L207 W130	大正11年3月20日～大正12年2月28日	
86	座右出納簿	1	L207 W130	大正12年3月1日～大正13年12月30日	馬車運送全高田丑松
87	座右出納簿	1	L208 W130	大正14年1月1日～昭和2年1月31日	
88	座右出納簿	1	L208 W135	昭和2年2月1日～昭和4年4月11日	
89	金銭出納帳	1	L267 W197	大正2年2月1日～大正3年2月28日	表紙「米出入帳」
90	金銭出納帳	1	L266 W197	大正3年3月1日～大正5年3月31日	
91	金銭出納帳	1	L258 W191	大正5年4月1日～大正7年6月30日	
92	金銭出納帳	1	L260 W191	大正7年7月1日～大正9年6月30日	塩小売人指定第参拾壹号 大正11年以降は現金売りのみ記載
93	金銭出納帳	1	L271 W190	大正9年7月1日～大正12年5月31日	
94	金銭出納帳	1	L270 W193	大正12年6月1日～昭和元年12月30日	
95	金銭出納帳	1	L278 W218	昭和9年9月1日～昭和13年6月30日	帳末に発信要録記載 表紙「荷受」 帳末に発信要録記載 帳末に発信要録記載 帳末に発信要録記載
96	金銭出納帳	1	L284 W200	昭和13年7月1日～昭和15年12月31日	
97	金銭判取帳	1	L235 W160	大正2年1月12日～大正3年12月31日	
98	金銭判取帳	1	L236 W160	大正4年1月5日～大正7年1月6日	帳末に発信要録記載
99	金銭判取帳	1	L236 W159	大正9年12月31日～大正12年11月30日	
100	金銭判取帳	1	L244 W170	大正12年12月5日～昭和2年5月20日	
101	金銭判取帳	1	L240 W168	昭和10年5月1日～昭和15年4月30日	帳末に発信要録記載
102	金銭判取帳	1	L233 W164	昭和15年5月24日～昭和18年9月30日	
103	判取帳	1	L190 W131	明治44年12月30日～大正2年12月15日	
104	判取帳	1	L185 W130	大正8年10月9日～大正9年12月21日	帳末に発信要録記載
105	白米出入帳	1	L235 W160	大正6年9月～大正10年7月	
106	白米出入帳	1	L234 W160	大正10年8月～大正14年9月	
107	白米出入帳	1	L230 W163	大正14年～昭和4年9月	帳末に発信要録記載
108	白米出入帳	1	L235 W163	昭和13年2月～昭和15年9月	
109	山仕込帳	1	L238 W160	明治44年5月～明治45年	
110	官塩受払簿	1	L235 W160	明治41年9月～明治42年12月	帳末に発信要録記載
111	口付両切煙草買受帳	1	L235 W157	明治37年～大正6・11・14・15年 昭和3年1月～9月	
112	荷受帳	1	L162 W124	明治45年1月～大正2年4月	
113	荷受帳	1	L166 W125	大正2年5月～大正3年4月	帳末に発信要録記載
114	荷受帳	1	L190 W132	大正3年5月～大正4年4月	
115	荷受帳	1	L190 W130	大正4年5月～大正5年2月	
116	荷受帳	1	L190 W134	大正5年3月～大正5年10月	帳末に発信要録記載
117	荷受帳	1	L194 W133	大正5年11月～大正6年8月	
118	荷受帳	1	L187 W133	大正6年9月～大正7年5月	
119	荷受帳	1	L191 W134	大正7年6月～大正8年8月	帳末に発信要録記載
120	荷受帳	1	L192 W132	大正8年9月～大正9年11月	
121	荷受帳	1	L192 W132	大正9年12月～大正10年12月	

釧路市立博物館所蔵の商業関係資料

番号	資料名	数量	計測値	年 代	摘 要
122	荷受帳	1	L 185 W130	大正11年1月～大正12年3月	メモ（商店振替口座名）添付 メモ（商店振替口座名）あり メモ（商店振替口座名・支の銘柄）あり
123	荷受帳	1	L 190 W130	大正12年4月～大正13年9月	
124	荷受帳	1	L 190 W132	大正13年10月～大正14年10月	
125	荷受帳	1	L 192 W133	大正14年11月～昭和2年1月	
126	荷受帳	1	L 190 W131	昭和2年2月～昭和3年4月	
127	荷受帳	1	L 190 W130	昭和3年5月～昭和4年8月	
128	荷受帳	1	L 192 W132	昭和4年9月～昭和5年12月	
129	荷受帳	1	L 188 W132	昭和6年1月～昭和7年8月	
130	荷受帳	1	L 190 W130	昭和10年11月～昭和12年5月	
131	荷受帳	1	L 185 W130	昭和12年6月～昭和14年3月	
132	貨物判取帳	1	L 165 W123	大正2年4月28日～大正3年8月13日	常設展示 第一号
133	貨物判取帳	1	L 200 W138	大正3年8月15日～大正5年7月31日	
134	貨物判取帳	1	L 192 W133	大正5年8月1日～大正6年5月31日	
135	貨物判取帳	1	L 192 W137	大正6年6月1日～大正7年2月20日	
136	貨物判取帳	1	L 188 W131	大正7年2月15日～大正8年2月15日	
137	貨物判取帳	1	L 190 W132	大正8年2月17日～大正8年10月20日	
138	貨物判取帳	1	L 186 W128	大正9年12月21日～大正11年11月12日	
139	貨物判取帳	1	L 190 W130	大正13年5月4日～大正14年12月15日	
140	貨物判取帳	1	L 190 W130	大正14年12月16日～昭和2年11月30日	
141	貨物当座帳	1	L 190 W130	大正11年11月～	
142	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和8年9月25日～昭和8年11月27日	第二号
143	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和8年11月27日～昭和9年2月12日	第三号
144	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和9年2月13日～昭和9年5月8日	第四号
145	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和9年5月17日～昭和9年7月24日	第五号
146	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和9年7月24日～昭和9年9月16日	第六号
147	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和9年9月17日～昭和9年11月10日	第七号
148	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和9年11月10日～昭和9年12月28日	第八号
149	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和9年12月28日～昭和10年3月26日	第九号
150	貨物配達書受領證控帳	1	L 233 W162	昭和10年3月26日～昭和10年6月25日	新釧路運送社
151	新釧路送状	1	L 240 W162	昭和7年3月1日～昭和8年11月12日	新釧路運送社 未使用
152	新釧路送状	1	L 265 W125	昭和	
153	鉄道直扱貨物発送覚	1	L 238 W160	大正5年4月29日～大正9年12月27日	「船荷證写」と同形式 No.159へ続く 葉書添付 メモなど添付 発送通知書など添付 出荷案内書など添付
154	鉄道直扱貨物発送覚	1	L 235 W160	大正10年1月5日～大正11年9月4日	
155	鉄道直扱貨物発送覚	1	L 233 W155	大正11年9月6日～大正13年12月26日	
156	鉄道直扱貨物発送覚	1	L 230 W158	大正14年1月4日～昭和元年12月28日	
157	鉄道直扱貨物発送覚	1	L 235 W160	昭和2年1月4日～昭和3年5月19日	
158	輸入船荷證控	1	L 234 W160	明治41年7月3日～大正2年5月28日	
159	船荷證写	1	L 231 W162	大正2年6月6日～大正6年1月2日	
160	船荷證写	1	L 235 W155	大正6年1月4日～大正12年10月16日	
161	船荷證写	1	L 237 W170	昭和8年10月27日～昭和12年9月17日	
162	船荷證写	1	L 240 W168	昭和12年9月17日～昭和16年10月23日	
163	御通	1	L 192 W130	明治45年6月15日～明治45年12月1日	中村調吉
164	御通	1	L 190 W129	大正4年1月～大正4年12月28日	宮嶋
165	御通	1	L 187 W133	大正6年1月～大正6年12月31日	宮嶋合名会社
166	御通	1	L W	大正5年1月～	常設展示
167	御通	1	L 193 W131	昭和7年1月11日～昭和8年12月28日	◎原見
168	御通	1	L 190 W130	昭和9年	二奥田呉服店 記載部分は破棄
169	御通	1	L 193 W134	大正9年1月～大正9年12月	明治商会
170	御通	1	L 192 W131	大正9年12月～大正10年12月	明治商会
171	御通	1	L 191 W134	大正10年12月～大正11年12月	明治商会
172	御通	1	L 193 W131	大正11年12月～大正12年12月	明治商会
173	御通	1	L 193 W134	大正13年1月～大正13年12月	明治商会
174	御通	1	L 195 W135	大正14年1月～大正14年12月	明治商会
175	御通	1	L 195 W136	大正15年1月～大正15年12月	明治商会
176	御通	1	L 190 W131	大正9年6月～大正10年6月	敷島商会
177	御通	1	L 187 W131	大正10年8月～大正10年12月	敷島商会
178	商品通帳	1	L 190 W130	大正11年1月～大正11年12月	敷島商会 「御通」に同じ
179	商品通帳	1	L 191 W131	大正12年1月～大正12年12月	敷島商会 「御通」に同じ
180	商品通帳	1	L 191 W131	大正13年1月～大正13年12月	敷島商会 「御通」に同じ
181	商品計算帳	1	L 195 W134	大正14年2月～大正14年12月	敷島商会 「御通」に同じ
182	商品計算帳	1	L 194 W134	大正15年1月～大正15年12月	敷島商会 「御通」に同じ
183	商品計算帳	1	L 190 W134	昭和2年2月～昭和2年12月	敷島商会 「御通」に同じ

同業者組合の負担金や地域の共益費などの支出項目も見られる。

(3) 各帳簿

実際の帳簿について、いくつか紹介する。

『船荷證写』

船で運搬した商品について記載。出荷先ごとにまとめられ、船名・荷積港・品名・数量・荷出人・運賃・出入港日などの項目がある。あわせて、荷出人からの発送通知書など、帳票類の添付も見られる。

『当座帳』『大福帳』

ともに日々の貸し売り状況を記載。このうち大福帳は、数人の限られた顧客への販売を記している。また、天候を中心としたその日のできごとの記載も見られる。現金売りについては現金帳に記載されており、「マント長靴男」といった客の特徴のメモ書きも見られる。

『元帳』

貸し売りした顧客ごとに月で締めたもの。たとえば、大正6年では項目数は132にのぼっており、個人と商業者がほぼ同じ割合となっている。商業者は屋号とともに職業名を記しているものも見られる。また、売り掛け金が数年にわたって未回収のものは別項目をたてて記載している。

『鉄道直扱貨物発送覚』

売買された商品が鉄道（現JR根室本線）を利用して発送された分を記載。これによると西は厚内（浦幌町）、東は姉別（浜中町）まで発送されていることがわかる。また、私鉄の雄別鉄道を利用して発送した分は新釧路送状に記載されている。

『惣帳』

貸し売り分を顧客ごとに月で締めている。あわせて、入金の日と金額の記載によって金銭の回収の有無がわかる。

『荷受帳』『支払帳』

前者では、伊藤家で購入した物品について購入先が件ごとに記載している。後者では、支払い先ごとに月別の支出を記載している。

『座右出納簿』『金銭出納帳』

ともに日々の収支を記載。前者は収支があるごとに、



写真6 当座帳の記載内容（大正3年）

その場で記載したメモ的なもので、これを書き直したものが後者となっている。

4. おわりに

今回は伊藤商店と資料の概要を紹介するにとどまった。今後は、さらに資料の細かな分析を進めることによって、商品の流通経路、伊藤商店以外の商店、商品の種類と価格といったことがらについて、当時の暮らしと合わせながら明らかにしていくことが可能と思われる。これには、日常のできごとなどをも記した葉書や封書の写しといった帳簿以外の伊藤家資料も検討するに値する。

伊藤家及び伊藤商店に関しては、昭和44（1969）年に当館が金次郎氏に対して行った調査の記録をもとに、あらたに伊藤敬之輔・茂乃夫妻から聞き取り調査を行った。

多大なご協力に対し、記してお礼申し上げます。

参考文献

渡辺 茂編 1957. 釧路市史 釧路市 726pp.

釧路市史編さん員会議編 1973. 新釧路市史第二巻 釧路市 1240pp.

釧路市史編さん員会議編 1995. 新修釧路市史第二巻 釧路市 651pp.

北海道道史編集所編 1973. 新北海道史第四巻 北海道 1255pp.

札幌市教育委員会編 1997. 北の生活具 北海道新聞社 317pp.

白糠町史編集委員会編 1989. 白糠町史下巻 白糠町 1139pp.

阿寒町史編纂委員会編 1966. 阿寒町史 阿寒町 1136pp.